

博多湾環境保全計画（現行）の概要

1 博多湾環境保全計画の概要

【目的】

博多湾の持つ豊かな自然環境の保全・再生および創造を推進すること。

【位置付け】

福岡市環境基本計画の部門別計画・指針等の一つであり、博多湾の環境保全施策に対する本市の基本的方向を示す計画。

【計画の変遷】

博多湾の水質保全を図るため、平成 10 年 3 月に「博多湾水質保全計画」を策定した。この結果、水質については一定の効果がみられたが、夏季の貧酸素水塊の発生や赤潮による漁業被害の発生等の新たな課題が出てきた。

このため、水質のみならず、生物の生育・生息の場の保全及び創造を推進するため、平成 20 年 1 月に「博多湾環境保全計画」を策定した。

平成 10 年 3 月 博多湾水質保全計画

（水質環境基準の達成）

↓
貧酸素水塊の発生や赤潮による漁業被害

平成 20 年 1 月 博多湾環境保全計画

（生物が生まれ育つ博多湾）

- ・ 5つの視点
- ・ 6つの海域（平成 27 年度計画目標像）
- ・ 博多湾環境保全計画推進委員会による計画の進行管理

【計画の概要】

博多湾環境保全計画では、博多湾の水質保全という従来からの視点に、「自然とのふれあいと生物の多様性の保全」のために重要と考えられる 4つの視点を加えている。

また、博多湾の将来像は「生物が生まれ育つ博多湾」とし、計画年次（平成 27 年度）において博多湾が目指すべき姿である計画目標像を、干潟や砂浜海岸などの環境特性に応じて 6つの海域に分けて設定。

2 計画の推進体制

学識経験者、漁業者、市民団体、事業者、関係行政機関により構成される博多湾環境保全計画推進委員会を設置し、博多湾の水質・底質や生物指標調査（底生生物・カブトガニ・藻場）のモニタリング調査結果や施策の進捗状況等をふまえ、計画の進捗管理や施策の効果の評価、新たな対策の検討などを行い、計画の推進を図った。

また、平成27年1月より、博多湾環境保全計画推進委員会を3回開催し、現行計画の検証や改定案の作成等を行ってきた。

①現行計画の検証（H27/1/26）

現行の博多湾環境保全計画の検証内容について議論し、季節別の物質循環の健全化や、博多湾の環境保全に市民が関わるしくみづくりが課題との意見をいただいた。

②改定の方向性（H27/8/7）

博多湾環境保全計画の改定の方向性について議論し、対象海域の設定の考え方や、国や県との連携の必要性について、意見をいただいた。

③骨子案の検討（H27/10/28）

博多湾環境保全計画（第二次）の骨子案について議論し、科学的かつ市民にわかりやすい計画目標像の設定等について、意見をいただいた。

<博多湾環境保全計画推進委員会委員名簿：13名>

| 区分 | 氏名 | 所属(役職) |
|---------|--------|-------------------------|
| 学識経験者 | 大嶋 雄治 | 九州大学大学院農学研究院 教授 |
| ○学識経験者 | 川口 栄男 | 九州大学大学院農学研究院 教授 |
| ◎学識経験者 | 楠田 哲也 | 九州大学 名誉教授 |
| 学識経験者 | 小島 治幸 | 九州共立大学 名誉教授 |
| 学識経験者 | 下村 通誉 | 北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 |
| 学識経験者 | 松山 倫也 | 九州大学大学院農学研究院 教授 |
| 学識経験者 | 山崎 惟義 | 福岡大学工学部 教授 |
| 学識経験者 | 山田 真知子 | 福岡女子大学国際文理学部 教授 |
| 漁業従事者代表 | 村田 繁雄 | 博多湾漁業者協議会 会長 |
| 市民団体代表 | 小野 仁 | 日本野鳥の会福岡 代表 |
| 市民団体代表 | 須本 恭雄 | 特定非営利活動法人 はかた夢松原の会 副理事長 |
| 事業者代表 | 中村 雅之 | (株)海の中道海洋生態科学館 館長 |
| 関係行政機関 | 秋本 恒基 | 福岡県水産海洋技術センター 資源環境課長 |